

響流

HIBIKI

高田教区報

高田教区 教化テーマ

私はどこで生きているのか
～たずねよう 真宗の教えに～

2021年7月30日 第152号



画題「ココロ」 篠原真知子 (第13組光徳寺坊守)

お寺にあるお地藏さまです。実際のお地藏さまは可愛いのですが、何故か絵に描いたお地藏さまは、亡き母の顔に似てしまいました。とても好きな絵であり、不思議にココロが落ち着きます。

助けたいと
と願うても
不安が残るけど
助けたいと
仏様に出会うと
安心できる

横山 颯 書

(妙高市 高校三年生)



高田教区

検索

発行所 真宗大谷派 (東本願寺) 高田教務所
上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913
<http://www.takada-kyoku.jp>

発行 橘 秀憲
印刷 永田印刷株式会社

珠数つなぎ法話

次回 井上

今回 比後

第3回 波邊

第2回 藤島

第1回 金子

リレー方式の珠数つなぎで法話をいただくコーナーです。

第4回 「立教開宗と

真俗二諦について」

第3組 大泉寺 比後 孝

2023年には、親鸞聖人御誕生850年と立教開宗800年の慶讃法要が執行されます。この「立教開宗」は、『化身土の巻』に「三時教を案ずれば、我が元仁元年甲申にいたるまで」と「如来般涅槃」を数えられた「聖人52歳の元仁元年(1224)」の年とされますが、立教開宗慶讃法要が50年毎に行われるようになったのは、1886年(明治19)の『大谷派宗制寺法』の第一編総則の第一章に「立教開宗」について「第一条 宗祖聖人年五十二、浄土真宗の名を立て、教行信証書類を造る。宗祖深く之を慨し、乃ち三国の七高僧傳燈相承の正意を顕揚して、立教開宗の本書を著す。即ち教行信証書類なり、蓋し其の書たるや、経論諸書の要文を類聚し、玄を探り幽を開き、以て真俗二諦の宗義を大成せり。これ開宗の主旨なり。…」と、「真俗二諦」が開宗の主旨と定められてからのことです。

『宗制寺法』の文言は、この部分に限って言えば、間違いはないのですが、問題はこの後の章で「真俗二諦の宗義」について、覚如や存覚にはじまった、親鸞聖人のおおせになきことをおせせとしていった、悲歎すべき改竄ざんが、そのまま受け継がれてしまっていたということです。それは「親鸞聖人はただかれた真俗二諦」本来の意味ではなく、「佛法を真諦、王法を俗諦」とするという誤った真俗二諦論を展開し、俗諦門とは「皇上を奉戴し政令を遵守し、世道に背かず、人倫を紊みだらず、以て自己の本業を励み、以て国家を利益す。」と規定して、「二諦相依て現当二世を相益す。是を二諦相資の法門とす。」という、いわゆる双論双翼論にすりかえてしまうことで、宗門は、その後、国家の天皇制軍国主義政策に翼賛し、侵略戦争に加担していくことになってしまいました。親鸞聖人の立教開宗の真の意味を、一人一人が改めて再確認しなければならない慶讃法要という最大の機会をお迎えするにあたり、私たちが、いまだ宗門の負の歴史を顧みることもなく、今日に至っても「佛法・王法」が「親鸞のいう真俗二諦」であるという虚言すら捨てきれずにいることは、何よりも、御影堂に「見真」の勅額をかけた続けざま、慶讃法要を行おうとしていることで、その体質として露呈してしまっています。今、真に勘決すべきことから眼を背反らし、止住された最後の機会を空過してはなりません。

次回は第13組 福浄寺 井上一英さんです。

子どもの心をキラリと照らす

ココロ テラス

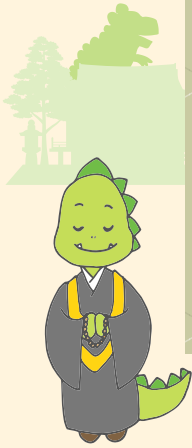


家族や友達と過ごす時間、学校生活や身近なできごとから生まれる悩みや疑問はたくさんあるね。

こんな疑問が届いたらよ

ゲームをすることが大好きです。でも、やり始めるとなかなかやめられなくて、叱られてばかりいます。ゲームはしたいけど叱られるのは嫌です。テラスさん、どう思いますか。

今回も、響流寺のお坊さん、「テラスさん」に聞いてみよう。



「いつまでゲームしてるの!」

「ゲームは〇時までよ!」

お母さんに叱られたのかな。

楽しいことをしている時は、時間があっという間に過ぎてしまうよね。もう少しだけ遊びたいのに叱られる。その言葉についてカッとなって、「うるさいなあ!」なんて言ってしまったこと...あるよね。なんて楽しいことをずっと続けると叱られてしまうのだろう。

なぜ宿題をしなければいけないの。どうして時間を守らなくてはいけないの。それは、もうひとつその先にある「何か」を知る必要があるのかもしれない。もしかすると、あなたがゲームをすること自体を叱られているのではないのかもしれないよ。

あなたが美味しいご飯をたくさん食べて、夜はゆっくり体を休めてぐっすりと眠ることができて、毎日健康で豊かな暮らしができるように、お父さんもお母さんも心配している。それが鬱陶しいと思うときもあるかもしれないけれど、親が子を思う気持ちはとても大きいものなんだ。それは例えるとすると、とてもあなたかく、大きく、ほとけさまのような存在かもしれないね。

だからカッとなる前に少し考えてみて。あなたに願われていることがあることを忘れないでほしいな。



コトバキラリ

夏休み

大きな向日葵 長い一日。

ラジオ体操 すいかに虫捕り

もちろん宿題忘れずに。

いつまでも 続くといいな

夏休み。

桂新堂 夏休みせんべい より

テラスさんに聞きたいことがあったら、手紙やメールを送ってください。待っています。事故や病気に気をつけて、楽しい夏休みを過ごしてね!



今さら聞けない

知りたいこと

④

答

問

僧侶の修行について

他宗では、お堂に籠り読経・山道を歩き続ける・寒中に水を被る等の荒行があるようです。修行は、僧侶資格に必要なのでしょうか。

それとも、僧侶自身が己に挑戦しているのでしょうか。

浄土真宗では、どのような修行がありますか。

確かに明確な修行はありませんが、あえていうなら朝夕のお勤め、聞法、お念佛でしょうか。この質問はインターネットや文章でよく見かける質問です。それでもこの質問をして下さるといことは、何かしら腑に落ちない部分があることをお察しいたします。

昨今、僧侶に対する世間の目が厳しくなっています。当派においても御門徒から厳しい声が上がっています。通夜での法話が無い。読経があまり上手でない。月参りの際お勤めをサツとして帰ってしまう。本堂があまり開いていない。など、挙げればキリがありませんが…全てパーフェクトにできる僧侶はいないでしょう。これらの声上がる原因は、単に何が出来る僧侶を求められているわけではなく、人に対する丁寧さや真剣さに欠ける僧侶へのお言葉だと受け止めます。たとえお話や読経が不得意でも汗をかきながら精一杯その場を大切にしたい。月参りや本堂で、じっくり話を聞いて欲しいということでしょう。僧侶が目の前の人とコミュニケーションが取れているのかどうかだと思います。

一昔前ならいい意味でも悪い意味でも「お寺さんのことだから」と言っておきかけた方がいらっしやいましたが、現在では中々通用しないですね。私ごとですが、僧侶となり御門徒宅へ月参りに出かけるようになり十数年が経ちました。当初、学校で習ったことを門徒の爺ちゃんに毎回毎回「御本尊とは」

「御内佛のお荘厳は」「正信偈の読み方は」とお伝えしていました。しばらくして同じ様にお伝えしているとその爺ちゃんが「もうそんなことは教えてもらわなくていい。わしの話を聞いて欲しいんだ…」と言われました。その時の爺ちゃんの表情と声を今も鮮明に覚えています。その場から逃げるように帰ってきました。爺ちゃんと同様に他の御門徒もそう思っていたに違いありません。私は覚えた知識を爺ちゃんに「お伝え」ではなく「教え」ていました。そのお宅の御荘厳、正信偈の勤め方には御内佛の前に座って来た歴史があるのだということに気づきました。それを無視し、私の知識の発表会になっていました。非常に申し訳ないことをしました。僧侶が門徒の教化をしなければならぬという傲慢さが現れ出しました。教義を学び、勤行の練習をし伝えることも必要ですが、目の前の人との関係の中から共に教えを聞き自身が見出されることはもっと重要です。御念佛の教えを共に賜り開いて来た関係性が「聖人は御同朋・御同行とこそかしづきて」（『御文』1-1）の世界です。僧侶だけでなく、この世に生を受けた人間の人生全てが佛道修行の道場であると考えています。そういう意味では、特別な修行があるわけではなく、生きることが修行と受け止めることができるのではないのでしょうか。遠慮なく僧侶と語り合っていたきたいと思います。

第6組 最賢寺 金子光洋氏

悦

第四回門徒研修会を終えて

5月18日に開催され、様々な立場から、
38名の方が参加された

はじめに三条教区「女性研修会」部門副幹事・善行寺坊守を務める鷲尾祐子師のご講話をいただいた。自身の生活を踏まえて分かりやすく、真宗の教えのある生活について話をされ、「経済活動が変わるから、常識も変わってくる、でもその中で自分は切り刻まれていく。『一日一日を大切に生きよう』、これは間違っていないけれどそれではもう一歩足りない。そういう身だから『南無阿弥陀仏』なんだと、話してほしい」とおっしゃっていた。

ご講話のあと、六人ずつの班に分かれてワークショップへ移り、「お寺に期待すること」「コロナ禍の一年を振り返って」をテーマに、付せんを使って思いつくままに意見を出し合った。

重なる部分も多く、まずひとつはお金について「お葬式



のお布施をはじめ、寺院の集金・負担金が大きく、年金生活者、生活困窮者、一人暮らしの高齢者には負担が大きいので配慮してもらいたい。お布施をどれ位包めばよいか分からないから、共通のラインがあると良いのでは」などの意見があった。

高齢化も話題になり「寺の行事に参加するのは高齢者ばかり。門徒の若返りを希望する。自分の子、孫に同じようにお寺との関係を押し付けるわけにもいかない。若住職の横の繋がりを活かして若い門徒を増やしていけないか」と話が出ていた。

「お寺で葬式・法事をやってもらいたい。勉強会を企画してほしい。お寺のことをもっと教えてほしい。お寺の世話は楽しい」という門徒からの意見と、お寺側からも「講演会等寺で行うイベントに来てほしい」との声があがった。

今回の会を振り返りスタッフからは「女性の役員が少ないので、もっと参加し意見を言ってもらいたい」「コロナ禍で人が集まり学ぶ場が減ってさみしい」「家族葬も増え、加えて寺離れが進んでいる。ご近所さんの



付き合ひも減り、お寺と地域のかかわりが変わっていく。いろいろ考えさせられる」などの意見も出た。

今回は従来とは違うが、女性が考えればどんな形になるかという提案として、女性による企画・運営・実行という事で、目的は教団がかかっている「男女両性で形づくる教団」を目指す人の養成、その前段階として女性が意見を言う場・女性の意見を聞く場の提供など。なかなか声を出しづらい人はどういう形でなら発信出来るかという所に重点を置き、「聞く学習会」から「語り合う学習の場」に、と方向を定めた。今後会を重ねて、寺の在り方、門徒と寺の関係などを見直し、より発展させるための小さな一歩、足がかりとなる事を願っている。

(第4回門徒研修会
運営スタッフ)





そうだ
お寺に行こう

真宗大谷派高田教区 寺院探訪①

里山と伝統をまもる寺

横田山 善徳寺



境内奥は住職自ら手を入れている
上越一の美しさを誇る杉林



編集長記

近頃、SDGs（持続可能な開発目標）という言葉を耳にします。昨今、世界中で起こる環境破壊による大規模災害や資源の枯渇、それに伴う貧困や差別、格差等、山積した喫緊の課題を解決するための考え方と思われまます。

一方、善徳寺のある国田集落は、住んだことのないにもかかわらず何故か懐かしさを感じる佇まいです。何百年も時が止まったかのようにもあります。日本の原風景とはこのことでしょうか。

おそらく、先人たちによってすでにSDGsを達成している環境だから変わらぬのでしょう。古いことが新しい、まさに「温故知新」、先人たちに尋ねればこれからの行く末も自ずからみえてくるようです。

善徳寺境内及び経堂は、一声かけていただければ拝観いただけます。世界を飛び回ってこれられたご住職の見識の広いお話は時が経つことを忘れてしまいます。お話を伺いたい方は前もってご連絡をされた方がよいかもしれませんね。

歴史ある経堂を守り続けるために皆様のご協力が必要となっております。参拝の折には是非ご協力をお願いします。

今回掲載できませんでしたが、「枝垂れ桜」や「古民家のような庫裏」など他にも魅力が沢山ございます。是非ともたっぷり時間をかけてゆっくりとご参拝ください。

含蓄のある言葉を毎月更新する法語掲示板

真宗大谷派善徳寺

人を
ひとつかみすれば
すべての種類の
人がいる
横田キク
でも自分の中にも
そのすべての人がいる

樹齢百年を越える
巨木のドウダンツツジは圧巻
山門を額縁に撮影するのがオススメ



経堂彫刻

2020年ご修復工事完了



明治34年10月建造
国の登録有形文化財「善徳寺経堂」
黄檗版・鉄眼の一切経所蔵



横田山 善徳寺

高田教区 第12組
住職 横田 力
〒949-3422
新潟県上越市吉川区国田51
Tel. 025-548-2810
e-mail sanrino53@docomo.ne.jp



耐雪構造の本堂
春を迎え、オオムラサキツツジを
楽しんでいよう



仏足石（上越市指定文化財）

ブツダ（仏陀）の足跡の形を石に彫りつけ、画いたもの。

古代インドでは、菩提樹・法輪などと共に、仏像が制作される以前からブツダそのものを表現したものととして、礼拝の対象とされた。

門徒仏々 言いたい放題

④

親鸞聖人の尊敬した聖徳太子は、古代日本の自主独立と文化の自尊を守り抜く最初の政治家であり思想家だった。太子は古代日本の国家的イデオロギーとして、仏教の振興を推し進めた。就中、太子は自ら『三経義疏』の仏教經典の注釈書を著わし布教に尽くした。日本の仏教伝来は、儒教より遅く六世紀半ば百済の聖明王から、大和朝廷に仏典と仏像を贈ったことで始まる。古代日本は中国の文明と様々な文化や制度を吸収してきた。とりわけ、律令制度は中央集権の国家統一において、大きく寄与したといえる。更に、文化面で日本の言語で初めての文字が漢字であった。

事程左様に多くの影響を受けた隣

国・中国。

然らば、古代から中国の国教である儒教が何故に浸透しなかったのか、素朴な疑問が湧いてくる。聖徳太子はインドで生まれた釈迦の仏教を蘇我派と共に重んじた。先見の明があった太子は、巨大な中華帝国の外交に「衣の下から鎧を見た」と推し量る。太子の仏教に傾斜した訳は、当時大国であった中華帝国の周辺国への侵略に対し、日本が中華帝国の属国に陥いず、独立保持を貫くことに腐心した。その中華帝国への外交政策の文化的な対抗手段に、中華思想の根本である儒教を拒み、敢えて仏教を選択したといえる。太子亡き後、隋が倒れ唐に変わり、その脅威が増した。友好国の百済が、新羅と唐の連合軍に攻められた歴史の事実が、太子の憂いを解き明かす。日本は百済に援軍を送るが、圧倒する連合軍を前に、白村江の戦いで敗退した。

『十七条憲法』は中学校で教わる。十七条憲法第一条「和を以て貴しとなす」

は、あまりにも有名な一節だ。この言葉は、中国の儒教の『論語』の借りものといわれているが、名著『古寺巡礼』『風土』などを残した哲学者・思想家の和辻哲郎氏は、寧ろ仏教の慈悲の精神がより強いと説いている。加えて、第二条は「篤く三宝を敬え」と、仏教を古代日本の国教に位置付けているのだ。日本人の精神思想は中国の影響を受けたと雖も、巨大な中華帝国に日本が気に入られるように、必要以上に媚びを売り、阿ることを聖徳太子は拒否したのである。現代に目を転じる。巨大な独裁国家でチベット仏教への弾圧や、ウイグル族への人権弾圧等が、さまざま報道されている。

世界の人権弾圧や宗教の迫害に対し、門徒仏々言いたい放題を捲し立てる。

酒吞童子





愚僧のつぶやき

〈真宗の葬儀編⑫〉

通夜が済みますと、いよいよ葬儀となります。葬儀の荘厳は地域により様々ですが、大谷派では昭和47年の『真宗』六月号に掲載されました「葬儀並に葬儀前後の行事について」が基本となっています。そこには、葬儀式第一と第二の場合が示されています。葬儀式第一とは、古い形の葬儀であり、棺前勤行した後、列を組んでご遺体を葬場となる所までお運びし、屋外に葬儀の荘厳をして、そこで葬場勤行を勤めるとい形式です。葬儀式第二とは、棺前勤行と葬場勤行を同じ場所で一貫して勤めるもので、この形式が現在は主流となっています。ただ、ここで問題となるのが、ご本尊の有無なんです。葬儀式第二の場合では、当然、ご

本尊を奉安する訳ですが、葬儀式第一の形式を取る場合、葬場勤行を勤める場所に、必ずしもご本尊が必要ではない訳です。

数年前、知人のご住職がお亡くなりになり、古式に則り、本堂で棺前勤行を勤め、本堂を出てすぐの屋外で葬場勤行を勤める事となりました。ご本尊は、喪主の希望でご絵像を奉安する事になったのですが、葬場勤行中に強い風が吹き、ご絵像がビリビリに破けてしまったんです。雨風の当たる屋外にご本尊を奉安すると、大切なご本尊を傷つけてしまう事になるのだと実感しました。

江戸時代の数学者、理綱院慧琳ご講師は、屋外でのご本尊奉安に反対し、こういうお言葉を残しておられます。『空位を拝せよ』と。つまり、「あなたは、目に見えるご本尊がなければ手を合わす事が出来ないのですか。信心の眼をもって

阿弥陀様を礼拝せよ」と教えられる事があります。この事は私にとって、大きな問いとなりました。(目に見える阿弥陀様にしか手を合わす事の出来ない私が、阿弥陀様と出遇ったといえるのだろうか)と。そんな折、仏説観無量寿経というお経の中に、「阿弥陀仏、神通如意にして、十方世界において変幻自在なり」というお言葉がある事を知りました。阿弥陀様は、色々な姿形となって私を導き、私の口から出てくださるお念仏となつて、「ここにおるぞ、ここにおるぞ」と呼びかけ続け、抱き続けて下さっているのだと気付かされました。

葬儀の荘厳を学ぶ事を通して、改めてご本尊と向き合う事が出来た事を慶ばさせて頂いた事であります。

合掌 称六字

ペンネーム 維摩教信

第8組 明岸寺 法隆 光昭

月参りで
ある御門徒さんが「地縛霊になつた人は往生しますか」と、ニヤリ。
本気か。本気の質問なのか。
「……。」
だって、霊だもの。

第4組 養性寺 内山 真明

4組としては特に動きはありません。個人的に、御年配の方とお話することが多い中、オリンピックの話になると前の東京五輪の話題になり「東洋の魔女」や「猪熊功」「岡野功」の金メダルが印象的だったとお聞きしました。
今回の五輪はウイルスの事もあり開催運営が迷走していますが、私達が本当に大切にすべき事は何かここから問い直したいと思えます。

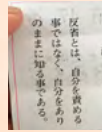


第11組 光圓寺 竹内 淳一

48回生です。本願結願の齢を待たずに願心成就になりましたこと、偏に凡愚即生のみ教えの因縁と賜ります。
『歎異抄』第9章「なごりをしくおもへども・か土へはまゐるべきなり」というくだりは、前段で披瀝された「往きたいと思わぬ身心」が破られ切つて、初めて参り出遇う往生。生まれ変わるようなもの。覚如さんの『執事抄』ではそのように受け止め直されていと思えます。
ただ、仏国土の諸相への肉迫は48別願を課題とし、問うことともなりましょう。生まれ後、更に窮むべし、と。

第5組 聴信寺 居多 啓

インターネットで見つけたおみくじのお言葉です。ちなみに日本のおみくじの約7割が「女子道社」という有限会社にて、手作業で作られているそうです。
元々は女性の自立を支持する機関誌『女子道』発行の資金源として始まったとのこと。
おみくじは女性の自立を支持する活動の一部となつていふのですね。



第1組 光照寺 梅澤 謙吾

1年遅れの東京五輪を目前に、政府の新型コロナウイルス感染症対策は迷走を続けています。ウイルスよりも、不安定すぎる政府の方が僕は心配です。だれも責任を取らないという日本のお家芸。頭が痛くなつてきます。

第12組 善立寺 山越 英隆

6月27日(日)、十二組の同朋会議が開催され、組長肝いりの議題「二カ寺でも多くの存続を」のもと意見が交わされました。
その中で思ったことは、門徒戸数僅かなわが寺が、生き残っている不思議さとともに、先人たちの熱意とご門徒方のひたむきな支えへの感謝でした。

第6組 福成寺 鎮西 広円

6組は6ブロックに分けられるのですが、各ブロックにおいて4月下旬から6月頭の期間中に講座が開かれました。
今回は親鸞聖人にとつての聖徳太子とはどのような人物であったか、そのような講義でありました。

第2組 常圓寺 鈴井 祐恭



新型コロナウイルスに右往左往して生活や文化伝統を変え私たちがですが、蛩は毎年変わらず10日間の最後の命を光輝かせていた6月でした。

第13組 福浄寺 井上 立英

月参りに行く「もうワクチン接種は済みましたか？」とよく話題にあがります。ワクチン接種が進む中で、今年の自坊の行事をどう執行するかについて悩まされています。
接種を受けたからといって感染のリスクが全く無くなるという訳でもなく、またコロナによる生活様式の変化、それによる私たちの意識の変化など様々な問題がでてきました。寺の行事が軒並み中止になった昨年とは異なり、これからの行事は「今まで通り」「例年の通り」ということが難しくなつてきた現在、新しい方法を考へていく必要に迫られていと思えます。

第7組 願生寺 平出 文勇

去る6月30日新井別院にて、妙高市戦没者追悼法要が本願寺派主式のもと本派7名大派12名の参列により執り行われました。先達のご苦勞は計り知れないけれども、数々の苦難を乗り越え奇跡的に私にまで届けていただいた命、お念仏の有り難さに胸を熱くするひと時でした。

第3組 正光寺 高橋 良暁

6月7日に、地元の小学生が校外学習で自坊の見学に来ました。1人一台ずつ学習用のタブレットを片手に、住職の話の聞いたり、本堂や井戸の写真の撮ったりしていました。町の神社や商店なども見学したそうです。お寺や町を知るいい機会になったようです。

おぼうさんと一緒にいっぱいあそぼう！みんなで夏休みの宿題もしよう！

おてらであそぼ べっいん寺子屋 新井別院の巻

おえかき、こけだま
デザート作り、シャボン玉
ふでペン教室、昔の遊び
スタンプラリー

＊日にち 2021年8月9日(月・祝)
＊時間 13時受付 13時15分開会 16時解散
＊会場 新井別院(妙高市下町5-3)
＊持ち物 水筒、汗拭きタオル、筆記用具、夏休みの宿題など

小学生対象
申し込み不要
参加費無料

【主催】 真宗大谷派 高田教区 青少年連絡協議会
【お問い合わせ】 真宗大谷派 高田教務所 電話025-524-3913

教区ホームページ連動企画『響流』～WEB版～

ネットDE仏教



人と人が集まる機会が少なくなっている今、遠く離れたご門徒さんがご法事やご葬儀にお参りしにくい状況となっています。今回はお寺でご法事やご葬儀をリモートでお参りできるように利用環境を整えるための方法をご紹介します。

今回の記事

第4回 ご法事をリモートで！

〈高田教区ホームページアドレス

⇒ <http://takada-kyoku.jp>



拭えぬか 差別心
分かっていての

【喜縁】

赤信号 認知検査の
絵の記憶

ウイルスに コロナ炎
母屋取られた

【恐妻症】

あじさいと 妻の顔いろ
似て非なり

【酒呑童子】

五輪では フェアな試合
カッコいい



映える！ 伝わる！ 写真講座 開催報告

2021年6月2日 14名参加

プロカメラマン 寺尾昭人氏の丁寧で分かりやすいご指導のもと、参加者は撮影テクニックを学びました。





**高田教区報『響流(ひびき)』を
ご覧になっていかがでしょうか**

「響流」をお手にされた門徒の皆さん、いかがだったでしょうか。

この度、さらに多くのご門徒の皆様にお届けすることが実現いたしました。

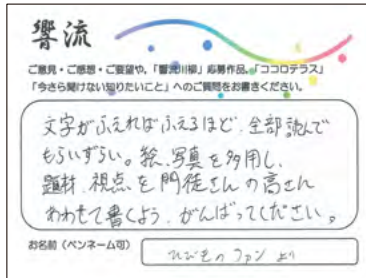
「愛読いただけるよう努力してまいりますので、お読みになっての感想をお寄せください。更に、『今さら聞けない知りたいこと』や『響流川柳』へのご投稿もお願いいたします。

ご提出は、各寺院並びに教務所宛、もしくは高田教務所 玄関に設置してあります投書箱にお願いします。

未永くご愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。

伝道広報部員一同

ご感想をいただきました



高田教務所(響流担当宛)
takada@higashihonganji.or.jp

「響流」に対するご意見、ご要望をお寄せください。また、各コーナーにご応募お待ちしております。高田教務所に設置した投書箱、または左記メールアドレスにて受け付けております。

より多くの方に手に取っていただける教区報にするために皆様のご協力をお待ちしております。

こもれび

今冬の大雪から季節はめぐり盛夏を迎えている。今年度「伝道広報部」の『響流』の発行を7月・11月・3月に変更した。お盆を前に、7月号はより多くの寺院と門徒の皆さんに読んでいただきたい想いからである。次年度以降も同じ時期に発行していく。

日本社会は高齢者のワクチン接種が概ね終わる。変異型の感染防止はこれからの課題である。されど東京五輪・パラが開催された。やる以上は国民の期待にこたえてほしい。ウルグアイでインド株の致死率が5割を超えた。福祉国家を目指したウルグアイは「南米のスイス」と呼ばれた。南米で最も民主的で平等な社会を作る。同国は日本に似ている。人口の4割が仏教に帰依すれば「南米の日本」と呼ばれるだろう。コロナ感染防止は医療と、あまつさえ人間の行いにかかると。自殺者が増えている。世界が真夏の木洩れ日のように輝くことを願っている。

(清澤)